

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

School Motto（スクール モットー）「Find a Way or Make One（見つけよう つくりだそう 明日への道）」のもと、社会の変化に臨機応変に対応し、主体的に学び、自らの可能性を拡げることができる生徒を育成し、地域から信頼される学校 （１）学びに向かう環境づくりの充実を図り、基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。 （２）授業・行事・部活動を通し、自ら考え、自ら計画し行動できる主体性及び継続力をより一層高める。 （３）自己を大切に、他者を尊重する心、地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。
--

2 中期的目標

1 学びに向かう環境づくりの充実を図り、基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。 [「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進] （１）新学習指導要領をふまえ、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」を確実に実施する。 ア 公開授業、研究授業、校内研修、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む。 イ 指導教諭を中心に、観点別学習状況の評価の進捗状況を共有し、教科横断的な研修会を行い、評価、改善を進める。 ウ 様々な課題を抱える生徒の支援に向けて、教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラー等の専門人材を活用した校内の支援体制の充実を図る。 （２）リーディング GIGA ハイスクール研究校として、1 人 1 台の端末をより効果的に活用し、生徒が主体的に深く学ぶ授業改善への取組みを推進する。 ※「ICT を活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取組みについて推進し、令和 9 年度に、それぞれの生徒肯定率について、90%、85%をめざす。 （R 4：84%・74%、R 5：91.3%・85.9% R 6：90.7%・84.8%）
2 夢と志（目的意識）を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みをホームルーム活動、総合的な探究の時間等を通じて教育活動全体で行い、自主性・自立性を育成するキャリア教育の充実をめざす。 ※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度（生き方や進路を考える教育）」の生徒の肯定率を、令和 9 年度に向けて、毎年、95%を超えるようめざす。（R 4：97%、R 5：94.5%、R 6：96.8%） （１）生徒が希望する進路を実現する取組み ア 生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。 （同窓生、地域の方等を講師として職業意識を高める進路講演会を行う。スケジュールの早期提供、模試の事前事後指導。面接練習の強化。志望理由書作成の添削など） ※ 年度当初の 4 年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと、令和 9 年度に向けて、生徒の希望進路実現率を 4 年制大学合格率 90%、就職斡旋 100%を維持し続ける。（進学：R 4：87.1%、R 5：89.4%、R 6：93.0%／就職斡旋率は 3 年間 100%） （２）国際理解教育と英語教育の推進 ア 平成 26 年度より、他の府立高校と合同での国際交流研修を継続してきた。また、令和 5 年・6 年度に 3 校合同でオーストラリア短期語学研修を実施した。海外研修の充実のため、実施内容・形態等を検討し、他のエリアを含めたプログラムを検討する。 イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。 ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、Base in Osaka の活用や英検受験の奨励等をすすめ、令和 9 年度までに英検受験者数 30 人以上を維持する。 （R 4：23 人、R 5：24 人、R 6：3 人）
3 自ら考え、自ら計画し行動できる主体性及び継続力をより一層高める。 （１）部活動の活性化 クラブ加入の促進並びに生徒の学校生活の質の向上に取り組む。 ア 1 年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。 ※ 1 年生のクラブ加入率・退部率を令和 9 年度に、それぞれ 70%以上、10%以下をめざし、加入率増加、退部率減少に取り組む。 （R 4：60.6%・13.1%、R 5：65.6%・13.1% R 6：68.3%・14.1%） イ 大阪府の部活動指針を踏まえ、部活動における練習の効率化を図ると共に、生徒が時間を計画的に使う調整力の向上を図る。 （２）“規範意識＝基本的生活習慣”の醸成 ア クラブ代表者会議や部活動集会をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。 イ クラブ員を中心に、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髮・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。 ※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率をそれぞれ、令和 9 年度に向けて、80%、85%以上を維持する。 （R 4：84%・81%、R 5：89.1%・74.3%、R 6：89.9%・79.0%） ※ 生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高めつつ、不登校生徒(年間 30 日以上欠席)の縮減に取り組む。（R 6 43 名） ウ 校舎内外や教室の清掃・美化を徹底するとともに、校内外のクリーンキャンペーンの実施、授業環境のユニバーサルデザイン化を進め、学習が深められる環境を整える。 ※「清掃の状況」肯定率を生徒教員ともに令和 9 年度に向けて、それぞれ増加させる。（R 4：71%・57%、R 5：73%・47.6%、R 6：74.4%・37.5%） エ 校内での挨拶の励行のため「こころの再生」にかかる挨拶運動などを行う。 （３）人権教育と教育相談機能のさらなる充実 ア 人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。 ※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率を、令和 9 年度に向けて、90%を維持する。（R 4：95%、R 5：95.7%、R 6：98.1%） イ 教育相談小委員会(生徒に関する情報交換)の定期開催や、教育相談委員会や支援委員会を踏まえた研修の実施、障がいがある生徒や課題を抱える生徒等への合理的配慮等、個々の生徒が自立できるよう支援体制を確立する。カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒支援について一層の徹底を図り学校全体での情報共有を行う。SC と連携するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に積極的に周知し、相談室の利用を促進する。 <u>不登校傾向にある生徒の早期把握、カウンセリングの実施等、本校での継続的な学びに繋げる。</u> ※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」、「先生は生徒がいじめや困っていることに真剣に対応」「担任以外にも相談室等で気軽に先生や SC に相談することができる」の生徒の肯定率をいずれも、令和 9 年度に 85%以上をめざす。（R 4：74%・91%・86%、R 5：77.1%・91.2%・86.9%、R 6：81.7%・92.3%・85.7%）
4 求められる魅力ある学校づくり[広報活動と地域連携の充実] ア 授業、クラブ、生徒会活動で地域と積極的に交流を深めるなど、本校の教育活動についての理解を深めてもらう機会を増やすとともに、学校説明会・中学校訪問など効果的な広報活動の充実を図る。 イ ホームページ、メールマガジン、配布物等を通じて保護者、生徒、中学生に大冠高校の情報と魅力をより効果的かつ継続的に発信し、理解を深める。

5	学校の全体で取り組む教員集団の確立[教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み]
ア	防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。
イ	校内研修の実施により安全・安心な学校環境や適切に対処できる教職員の資質向上を図る。 ・食物アレルギーについては、年度当初のアンケート、懇談等での情報更新を図り、アレルギー事故を生起させない教職員の危機管理意識を高める。 ・生徒の誤飲・誤食による事故が生起した場合も、対処できるよう学年当初に教員研修を行い、情報共有を行う。 ・薬物乱用防止教室を、保健体育科「保健」に加えて、外部専門家による講演等も実施し、命を守る行動ができる生徒の育成を図る。
ウ	新規採用教員・経験年数の少ない教員に対して、定期的に校内研修（管理職・首席・指導教諭を中心として）を行い OJT につなげ、教員の資質向上を図る。
エ	全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。とりわけ、部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行えるよう校内体制を見直し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○ 生徒集計では、肯定的評価が大きく低下している項目はなかった。概ね、本校の教育活動が肯定的に受け止められていると考えられる。 ・授業に関する項目（わかりやすく楽しい(86.1%)、自分の考えをまとめ発表する(86.3%)、実験・実習・校外学習の充実(59.5%)、一人一台活用(94.1%)）や、評価に関する項目（取り組む姿勢を評価(94.5%)、評価に納得できる(94.1%)）で、肯定的評価が向上している。新カリキュラムと観点別評価の実施、LGH（GIGA 構想）開始からから3年が経過し、本校での、授業の改善、評価の適正化などの研修、取組の成果が表れている。 ・生徒指導に関する項目（指導に納得できる(84.6%)、生活規律の確立(90.9%)、いじめ対応(93.2%)、相談体制(87.3%)）で、肯定的評価が向上している。カウンセリングマインドをもって生徒指導をしている成果が表れていると思われる。 ・数値は80%を切っているが、校内清掃(78.5%)も3年間で向上しており、取組の成果が表れていると思われる。 ・地域との交流(76.8%)、地域に役立っている(77.4%)も、コロナ禍が明け、向上しつつある。さらに、80%を越えるよう取り組む必要がある。 ○ 保護者集計では、回答率が6割となっている。ライデンメールで配信し、フォームで回答していただくようになり、4年が経つ。様々な場面で、学校と保護者の連絡手段としてオンラインが浸透したことも要因と考える。また、生徒と同様に、肯定的評価が大きく低下している項目はなかった。概ね、本校の教育活動が肯定的に受け止められていると考えられる。 ・特に、意思疎通(78.2%)、相談に応じてくれる(83.2%)、教育相談体制(76.9%)などの肯定的評価が年々向上している。担任の教員をはじめ、本校教職員が保護者とのコミュニケーションに努めている成果と思われる。 ・いじめ対応は、保護者(72.3%)に対して、生徒(93.2%)、授業がわかりやすいは、保護者(62%)に対して、生徒(86.1%)であった。生徒の肯定的評価より保護者の肯定的評価が低い傾向がある。情報提供(76.1%)も鑑み、懇談や説明会等を通じて、より一層、本校の教育活動について理解していただき、家庭でも保護者から生徒への働きかけ(話しかけ)をしてもらえるようにする必要がある。 ・一方、保護者の学校行事参加(77.9%)は、2年前と比べると、増加している。コロナ禍が明け、保護者の方も積極的に学校に来ていただけていると思われる。 ○ 教職員集計では、日常的な話し合い(87.5%)、評価・計画(75%)、教科を超えての議論(67.5%)、生徒の実態を踏まえた指導方法の検討(85%)、評価の検討(77.5%)などの項目は向上している。新カリキュラムと観点別評価の実施、LGH（GIGA 構想）開始から3年が経過し、一回りし、授業や評価について、教科や分掌等で積極的に振り返りや見直しが行われているものと思われる。 ・校務分掌(67.5%)、校内連携(67.5%)、意思疎通(65%)、職場の人間関係(77.5%)の項目が向上している。特に、職場の人間関係で「よくあてはまる」を回答した職員が42%を越えている。職員室をはじめ、校内で教職員の意思疎通、連携が活発に行われている成果と思われる。 ・初任者研修(72.5%)、PTA 活動(65%)、清掃(57.5%)等については、業務が忙しい中でも、若手教員育成、PTA との連携、校内清掃等に、前向きに取り組む教員が多くなっているものと考ええる。	第1回 学校運営協議会(令和7年7月4日) ・令和8年度 使用教科等図書の選定について ⇒ 承認(委員より) [学校への提言(抜粋)] ●令和10年度入学者選抜から選抜方法が変わるとの説明で、アドミッションポリシー枠で入学した生徒が、入学後に、クラブを退部した場合はどうなるのか。 A：特に不利益になることはない。 ●自己申告書の廃止に伴う代替えは。 A：実技試験や小論文を課すことにより、中学時代に取り組んできたことを一定聞き取ることを想定している。 ●地域への貢献とは。 A：地元の子ども祭りの運営等を想定している。本校でも、家庭科部の生徒が公民館のイベントを運営サポートしたり、校区の野外コンサートに出演する等、中高生が、地域のイベント等で活躍している。 ●中学生が司会をする、たそがれコンサートにも吹奏楽部が演奏したり、中学生と高校生が陸上のバトンパスの練習を行う等、地域連携や中高連携がより活発になることが期待できる一方で、私立高校の特別入試のようにならないか気になります。 A：公立高校の入学者選抜なので、公平公正な選抜方法を探ることから今回の方法を検討している状況です。 ●遅刻数が学年によって大きく異なるのはなぜか。 A：1年は入学して間がないこともあり、(規則正しく)遅刻数も少ない状況。3年は、進路指導の一環で、欠席・遅刻をしないよう厳しく伝えているからと思われる。2年は中だるみの傾向が否めない。 ●授業見学推進月間を設けて実施しているが、授業力を高めるための対策は。 A：しゃべり場では、ICTを活用した授業実践について発表・共有している。また、本校教員が、近隣の中学校での出前授業を実施する等している。 ●リーディング GIGA ハイスクールとは。 A：府立高校30校が指定されており、今年で3年目。電子黒板機能付きプロジェクタの活用実践と他校への活用状況の発信を求められている。年間5回の会議が開催され、本校からは首席1名が出席している。 府の指定事業で、指定年度に、他校よりも1年早く電子黒板が導入された。 ●近隣の中学校は、大冠高校への入学を希望する生徒も多いので、入試の状況を見て、地域住民としても気になっている。これからも、部活動交流や地域との連携等を進めていきたいと考えている。 ●ボランティアは難しいかもしれませんが、(私たちが学生の頃は)30年前は、社会福祉クラブがあり、手話を学び、発表しあったりしていた。また、最近では、硬式野球部が、地域に出向いて、清掃活動をする等の奉仕活動もしていますよね。 第2回 学校運営協議会(令和7年11月26日) ○ 委員による授業見学を実施 ●生徒の授業に対する前向きな雰囲気・授業態度の良さ等、先生との信頼関係がしっかりと構築されていると感じました。 ●プロジェクター等 ICT 活用はプレゼンテーション能力を発揮する上で非常に大切な手段ではあるが、「書く」という作業が、疎かになりがちであることも知っておく必要がある。 ●プレゼンテーションは社会人への準備であるが、日本語禁止の英語の授業も面白いのでは？ ●授業内容も多様化していて、(以前のような教員の)一方通行の説明だけではない。先生方も生徒も楽しそう。 ●政治経済の授業「株式会社を作ろう」は、オリジナルで教材を作っているのか。 A：法人が金融教育教材として作ったプログラムを活用しています。 ○ 進捗説明後の質疑 ● Better than before より良い学校になっていると思う。 ● 教育相談 居場所がない生徒にとっては、学校が安心できる場所になっている。 ● 文化祭で Paypay 支払いが実現し、(次は)食堂での Paypay 支払いは可能か？、株式会社を作ろう等、生徒の発想・アイデアが素晴らしい。子ども達が生き生きとしている。授業や行事等において、役割を与えられることにより子ども達は「場」があることに、やりがいを感じていると思う。 ● 時間外在校時間は土日や平日の朝の部活動は含まれるのか？ A 含みます。できる限り、平日に振替(時間休暇等)を取り、少しでも時間外在校時間を減らす努力をしてもらっています。 ● 授業見学では学年ごとのカラーが見えました。 3年生の卒業ソングの作成が非常に楽しみです。できれば、これからも毎年続けてほしいです。 ●毎年、変化していく授業をととても楽しみにしています。

	[協議委員から学校への提言] ●LGH やプロジェクター等、環境の変化に順応していくことが大事。 ●できること（can）を積み上げることで、授業だけでなく学校全体が良くなる。 ●オープンスクールで、より良い授業を外部に発信することで、学校の評判が一層良くなると思う。 ●各学年の目標を掲げているのがいい。 ●授業中、プレゼンテーション等の発表機会を積み上げることで（ペアワークからグループワークに、そして全体へ）と、より良くなっていくと思う。 第3回 学校運営協議会(令和8年2月3日) ・学校教育自己診断結果の報告 ・授業アンケート集約結果(前期・後期)の報告 ・令和7年度 学校経営計画(評価)について説明 → 質疑後に承認 ・令和8年度 学校経営計画について説明 → 質疑後に承認 [質疑応答] ●生徒の「将来や進路について考える機会」の肯定的回答は昨年比1%減ではあるが、96%と高い結果を得ている。目標設定が高すぎると感じるが、自己評価として◎で良いのではないか。 A：◎に訂正させていただきます。 ●生徒の希望進路実現率については4年制大学進学者が現在未決定の生徒が数人いるため○となっているが、現時点で4年制大学進学率が90%以上、就職率100%となっていることからこちらも◎で良いのではないか。 A：一般入試の結果を踏まえて、訂正するかを検討します。 ●国際交流研修については6名の生徒が NET による事前研修を12回受講し、外部事業者による「グローバル体験プログラム」にも積極的に参加するなど日常会話や現地でのマナーを学習していることから◎としても良いのではないか。 A：◎に訂正させていただきます。 [協議委員から学校への提言] ●卒業式での卒業ソングやメッセージ動画が楽しみです。卒業生の良い取組を引き継げるよう、卒業式には、在校生を各クラス2名ぐらい参列させてはどうか ●(外部講師を招いて進路学習や、人権学習を行われているようですが)、今の高校生には、闇バイトの実態を知るような講演会を計画・実施してほしい。 ●自転車の交通マナーに関すること、違法ドラッグに関すること等の講演会を実施してほしい ●前回の授業見学時に感じたが、学校全体の授業力が高まっており、それに伴って学校全体が良くなっていると思う。継続的に取組みを進めてほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進	(1) 新学習指導要領をふまえた、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」の確実な実施。 (2) リーディングGIGAハイスクール研究校として、1人1台の端末をより効果的に活用し、生徒が主体的に深く学ぶ授業改善への取組みの推進。	ア・経験年数の少ない教員の育成や教員間の共通理解を目的とした「しゃべり場」や公開授業を有効活用し、学校全体で授業改善を推進 イ・授業アンケート自己及び教科分析シートを各教員が振り返るとともに、観点別評価の進捗状況や授業見学等を通して、生徒に身に付けたい力を共有する。 ウ・英語・数学は、少人数指導により基礎基本を充実し、学びの向かう力を育成する。 ・電子黒板機能付きプロジェクタを積極的に活用し、1人1台端末を最大限有効活用した生徒の主体的に深く学ぶ授業改善への取組みを学校全体で推進する。	ア 校内研修の毎学期実施、3回以上[3回] イ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」85%以上[89.6%] ウ・授業アンケート生徒意識の肯定的回答の割合を85%以上[－] ・生徒向け学校教育自己診断における「授業へのICT活用の機会」の肯定率90%以上[90.6%]	ア 公開授業・研究授業の研究協議も含め「しゃべり場」を各学期に1回開催した。各教科の授業の中で、自らの考えをまとめ、発表し質疑を踏まえて理解を深める探究的な学びや、ソフトウェアの活用法等を情報共有した。(◎) イ 生活基本調査における生徒の「授業への満足度」は、90.7%で、昨年より向上した。単元目標の提示や説明、また、ペア・グループ等の授業展開の工夫等、引き続き、主体的な学習活動を進める。(◎) ウ 苦手意識の多い教科ではあるが、英語・数学(少人数講座)における授業アンケート(興味・関心、知識技能の習得)の肯定回答は、各々86.9%,87.9%であり、基礎事項の習得、学びに向かう態度を育成することができた。(○) ・学校教育自己診断(生徒)における「授業へのICT活用の機会」の肯定率は、94.1%と、昨年以上に向上した。引き続き、教材提示・課題の送受信等、事例を共有しつつ、授業改善を推進する。(◎)

府立大冠高等学校

2 夢と志を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	(1) 生徒の希望進路実現への取り組み	ア・生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で連携し、充実を図る。 ・進路指導部と学年が協働し、外部関係団体等の協力のもと、1年次より3年間をとおしての計画的な進路講習、キャリア教育の充実を図る。 ・進路探究 1年生 職業(分野・職種等)について学び、2年生では、興味関心のある分野について発表原稿をまとめて発信するとともに、他の生徒の発表を踏まえ、進路目標を固めることができるようにする。 1年次は、職業に関するポスター発表、2年次は、興味関心のある分野(大学・専門学校等で学びたいこと等)からテーマを選出し、シートにまとめ、オーラル発表する)	ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来や進路について考える機会」の肯定率97%以上 [96.3%] ・生徒の希望進路実現率を4年制大学、進学率95%以上、就職100%を維持 [93.0%、100%] ・探究発表の振返りににおける「自身の進路・専門分野等の選択に役立ったとの肯定率 70%以上 [一]	ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来や進路について考える機会」の肯定率は、96.0%であった。キャンパスツアー、分野別説明会の開催等、新たな取り組みを取り入れたことによる成果と捉えている。引き続き進路実現に向け探究を進める。 (○) ・生徒希望進路実現率は、4年制大学90.1%、就職100%。引き続き、一般入試を受験し希望進路をめざす生徒への支援を図る。 (○) ・1年生は、職業ガイダンス実施後に興味のある職業について、グループ毎にポスターに取りまとめた。2年生では修学旅行の沖縄探究として、観光、環境(生態系保全)、文化(言語・方言)等について調べ、発表資料に取りまとめた。また、クラスごとに代表を選出し、学年集会の場でオーラル発表を行った。振返りににおける「自身の進路・専門分野等選択に役立った」との肯定回答率は、2年生 96.5%、1年生 97.5%であった。 (◎)
2 夢と志を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	(2) 国際理解教育と英語教育の推進	ア・他校との合同国際交流研修の企画運営を行い、国際理解教育を推進する。 イ・生徒が実践的な英語力を向上させるために、Base in Oska の活用や英検受験の奨励等により、生徒の実践的な英語力を育成する。 ウ・NET と連携し、『みんなの英会話』を開催し、課外で英語に親しむ取組を開催する。 日常会話や、各国の文化等を英語で学び、参加生徒の英語学習への興味関心を高めるとともに、活用力の向上をめざす。	ア・オーストラリア(マジー高校)とは異なるプログラムを企画し、参加生徒による研修報告会を開催し、体験成果の共有を図る。 ・事前学習や事後連携等、オンラインでの交流を模索する。 イ・30 人以上の英検受験者を確保する。[3人] ウ・英語を楽しむ生徒が増えるよう、年間5回程度開催する。[15回]	ア・教育センター附属高校・吹田東高校と合同開催により 7/30～8/8 オーストラリア フィールド高校との国際交流研修を実施した(生徒6名)。 (○) ・T-NET による事前レッスン(12回)、外部事業者による「グローバル体験プログラム」(2回)を実施し、日常会話や現地でのマナー等を学習した。 (○) イ・英語検定の受検者数は、のべ17名。 T-NET による Grade 別講習を行い、英語検定取得状況は、2級1名、準2級2名 3級3名 計6名。 (△) ウ 放課後の英会話 Lesson は3回実施し、留学生との交流を行った。とりわけ、12月は、NET・外部留学生を交え、実施。生徒24名が参加し、クリスマスシーズンの紹介や、ゲームを通じて英語に親しむ機会となった。また、学年別 Lesson を1年生9回、2年生6回、3年生5回 計20回実施した。 (◎)

府立大冠高等学校

3 主体性及び継続力の向上	(1)部活動の活性化	ア・減少傾向にある加入率の回復に向け、1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させるとともに、部活動大阪モデルを活用し、ペア校との交流を図る。 イ・部代表者会議で共通認識を図り、部活動の活性化策（退部率の減小案等）を検討する。 ・部員総会を開催し、互いの活動を発表し合うと共に、大冠としての連帯意識向上を図る。	ア・1年生の部活加入率・退部率をそれぞれ70%以上、10%以下にする。 [68.3%・14.1%] イ・部代表者会議を学期に2回以上開催し、自治活動の支援を行う。 [8回]	・当初(5月)の加入率(1年生)は71.3% 1月実施の1年生部員数調査では70.8%と70%以上を維持(退部率0.5%)している。 1・2年生としての加入率は、60.5%を維持しており自主的な部活動が継続的に行えるよう部活動の活性化を図る。(○) ・部活動代表者会議は、5回実施した。挨拶励行、安全管理、学校HPの更新(広報活動)等、生徒の主体的な運営について指導した。[◎]
	(2)規範意識＝ 基本的生活習慣の醸成	ア・イ クラブ員を中心に、生徒会と連携して、挨拶・遅刻・頭髮・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。 ウ・日々の清掃活動の徹底を図り、学習環境を整えるとともに、クラブ員・保健委員・美化委員、PTAによる取組を行うことで生徒・教職員の美化意識の向上させる。 エ・朝の生徒(クラブ員・生徒会・生活委員中心による)挨拶運動を年1回以上行う。	ア・イ 生徒・保護者向け学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目のいずれも肯定率85%以上を達成する。[89.9%・79.0%] ・不登校生徒(30日以上欠席)の縮減に取り組む。[43名] ウ・保護者と生徒による校内緑化、クリーンキャンペーンを年1回以上実施。[1回] ・生徒・教職員向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」の肯定率の増加 [74.4%・37.5%] エ・生徒による朝の挨拶週間を年1回以上行う。[5回]	ア・イ 生徒・保護者向け学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の肯定的回答は、それぞれ90.9%, 78.8%であった。生徒の肯定回答が1ポイント向上。引続き、保護者への発信・連携に努める。(○) ・休みがちな生徒には、スクールカウンセラーの面談を設定し、困り感の解消に努めた。30日以上欠席者は、35名(2学期末)。引続き、生徒支援の側面も踏まえた、生活習慣の醸成に努める。(○) ウ・公開授業・オープンキャンパス(10月)時に生徒・保護者による寄せ植え(周辺清掃)等、クリーン活動を行った。(○) ・生徒・教職員向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」の肯定回答は、それぞれ78.5%, 57.5%で、前年度より増加した。定期考査ごとに丁寧清掃・安全点検、行事ごとの大掃除等、日常的な美化意識の醸成と逐次、施設整備を進めることで、引続き、美化意識の向上に努める。(○) エ・後期生徒会役員による挨拶運動を10/28～/31の4日間行った。また、生徒自ら自分たちの行動を律することができるよう、『時間を守る』『校内美化』等の啓発ポスターを作成し、各HR教室に掲載した。(◎)
3 主体性及び継続力の向上	(3)人権教育と教育相談機能のさらなる充実	ア・人権教育企画委員会を活性化し、時勢に即した年間計画を策定し、あらゆる教育活動の中で、生徒の人権感覚を高めることができるよう取り組む。 イ・様々な課題を抱える生徒が増える中、生徒に関する情報交換(小委員会)や、教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門人材を活用した相談体制の充実を図る。 ※様々な課題を抱える生徒が増える中、教育相談委員会で共有した情報をもとに、欠席の多い生徒には、オンライン学習やオンデマンド学習等、継続的な学習を支援する。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育充実度」の肯定率95%以上 [98.1%] イ・生徒に関する情報交換(小委員会)の定期的な開催(年間15回以上)により生徒の状況をより早く掌握する。[13回] ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制充実度」の肯定率86%以上 [85.7%]	ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育充実度」の肯定回答は、98% 引続き、様々な場面(授業・HR活動・部活動等)で、啓発に努める。(○) イ・生徒に関する情報交換(小委員会)を隔週開催でのべ11回開催し、生徒情報の共有・対処策の検討等を行った。また、定期考査時に教育相談委員会を開催し、個別対応状況を確認し、個別の支援を遂行した。(○) 学校教育自己診断(生徒)における「教育相談体制充実度」の肯定回答は87.3%あり、引き続き、生徒支援の充実を図る。(○)

府立大冠高等学校

4 広報活動と地域連携の充実	(1) 広報活動と地域連携の充実	ア・地元高槻を中心に、さらに枚方方面の中学校を意識し、北摂・北河内地域の中心にある学校として、学校説明会、クラブ見学会などにおいて、本校の取組みについて、広報と理解を図る。 イ・HP の積極的な更新に努め、本校の教育活動を公開し、地域の信頼に繋げる。 ・授業、クラブ、生徒会等における地域との交流機会をできる限り創出し、本校の活動を発信できるよう取り組む。	ア・学校説明会、クラブ見学会の参加者数の増加 [552 名・202 名] イ・HP を日々更新し、充実を図る [部活動: 学期に 1 回/校長ブログ 106 回更新] ・生徒向け学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の肯定率 60%以上 [73. 0%]	ア・学校説明会・部活動体験の参加者は、それぞれ 527 名、158 名であった。(別途、学校説明会時に実施した部活体験には、206 名の参加者あり)。(○) イ・部活動の活動報告は、各学期 1 回配信するとともに、教育課程の改定等を発信。また、校長ブログ(139 件)では、授業の様子や部活動・委員会等、生徒の活動状況を発信する共に、保護者向けメールマガジンを 174 回配信し、事務連絡や行事の案内等を行った。(○) ・近隣保育施設の園児を招いた手作りコンサートや、吹奏楽部による施設への表敬演奏、生徒会執行部員による地域の祭りへのボランティア参加、家庭科部員が地域の祭りの運営支援、和太鼓部による地域のお祭りでの演奏、文化祭で作成した移動遊具を近隣保育施設への寄贈等、地域貢献活動を行った。生徒向け学校教育自己診断における地域貢献に関する肯定回答率は、77. 4%と、生徒の達成感・意識がさらに高まった。(◎)
5 「働き方改革」に向けた取り組み 教員の資質向上と	(1) 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み	ア・防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。 イ・安全・安心な学校環境の構築、事案へ適切に対処できる教職員の資質向上を図る。 ・年度当初のアレルギー調査、懇談時間取り等把握情報の更新を図り、事故を生起させない危機管理意識を高める。また、誤飲・誤食による事故が生起した場合も、対処できるよう教員研修を行い、情報共有を行う。 ・薬物乱用防止教室は、保健体育科「保健」に加えて、外部専門家による講演等も実施し、命を守る行動ができる生徒の育成を図る。 ウ・授業アンケート結果を教員が分析し、改善策を策定する等の PDCA サイクルを踏まえた授業改善を図る。 ・経験年数の少ない教員に対して管理職・首席等を中心に対話形式校内研修を行う。 エ・全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。とりわけ、部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行えるよう校内体制を見直し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。	ア・年 2 回の避難訓練を実施し、緊急時の対応等を確認 [2 回] ・教職員対象に年 1 回以上の Web 安否確認を実施する。[1 回] イ・アレルギー対策会議を年 2 回以上実施し、年 1 回以上の教職員研修会にて情報共有(対処法等)研修を行う。[一] ・高校生活アンケートにおける薬物乱用教室等の「命を大切にする取組」に関する肯定率 90%以上 [一] ウ・授業アンケートにおける評価の平均値 3. 3 以上を維持 [3. 4] ・校内研修を毎学期実施する。3 回以上 [18 回] エ・年間時間外在校等時間 720 時間以上の教員 0 名をめざす。[9 名]	ア・避難訓練と防災学習(のべ 2 回)実施。春は火災被害を想定し、水平方向への避難に加え、生徒・教職員の安否確認を行った。秋は、クラスごとに動画教材を視聴し、防災の基礎知識を確認するとともに、避難所生活を想定したロールプレイを行い、互いに対処し合う防災学習を行った。(○) イ・各学期に 1 回、アレルギー対策会議を実施し、配慮を要する生徒情報を確認した。また、学校生活指導管理表の提出内容や緊急時対応計画を事前に確認し、職員研修(情報共有)を行った。(○) ・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定回答は 95. 9%あり、引続き、外部と連携した情報を伝えるとともに啓発に努める。(◎) ウ・授業アンケートにおける評価は前期 3. 38、後期 3. 42 と高い評価を得ている。とりわけ、「知識や技能が身についた感じている」は、3. 37(前年度 3. 29)と、高い評価を得ており、教職員の日々の授業改善の成果と捉えている。(◎) ・初任教員等には、首席・指導教諭による校内研修(対話形式)を隔週、のべ 11 回実施した。(○) エ・年間時間外在校等時間が 720 時間を超える教員数は 4 名(12 月末)に至った。週休日等の活動超過した時間の振替や、長期休業中の部活動付添(日番が担当)等、校内調整を行ったが、更なる対処策を講じる必要がある。(△)